全農
ZEN-NOH
食と農を未来へつなぐ。

2026 事業案内



生産者の営農と生活に貢献し
安全・安心な千葉の農畜産物を
お届けします

JA全農ちば

私たち全農グループは、**生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋**になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

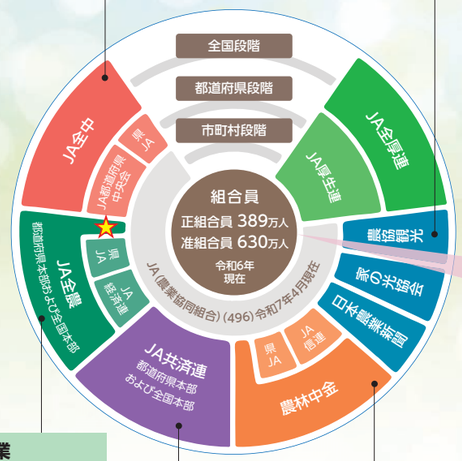
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JAとは

JA（農業協同組合）とは、各地域の生産者が組合員となり、お互いに助け合うための組織です。JAグループは、組合員の営農（農業を営むこと）、生活を支援するために、幅広い事業を展開しています。

代表・総合調整・経営相談事業
JAグループの意見を代表・総合調整し、組織、事業および経営に関する相談に応じる。

その他の事業
厚生事業、新聞情報事業、出版・文化事業、旅行事業を行う。（JA全厚連・厚生連/日本農業新聞/家の光協会/農協観光）



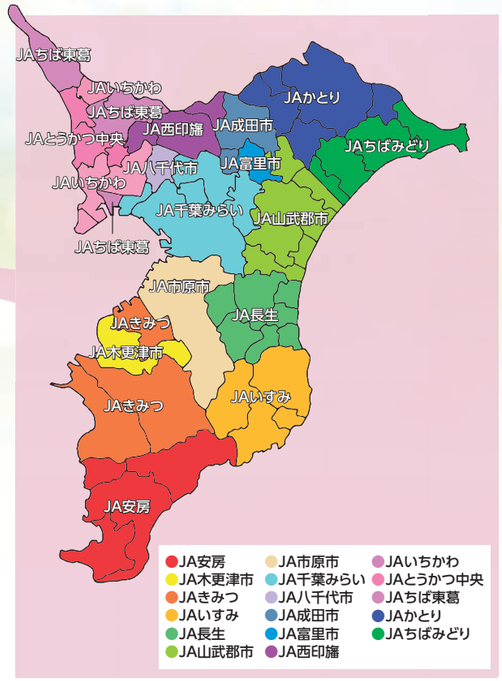
経済事業
組合員の生産した農畜産物を消費者に届ける「販売事業」と組合員に必要な資材を供給する「購買事業」を行う。

信用事業
組合員の貯金を原資に組合員に対する各種金融サービスを行う。

共済事業
生命共済、損害共済、年金共済を扱い、組合員の生活を保障する役割を担う。

千葉県内の17のJA

JA全農ちばは、県内17のJAとともに「経済事業」をすすめています。



協同組合とは

世界の協同組合の合言葉「一人はみんなのために、みんなは一人のために」「相互扶助」の精神の下、一人ひとりでは経済的に弱い立場にある個人や中小規模の事業者が集まり、助け合いながら共通の目標を達成するための組織です。

	協同組合【非営利】	株式会社【営利】
組織者	農業者、漁業者、森林所有者、勤労者、消費者、中小の事業者	投資家、法人（会社の株を買った株主）
組織者の名称	組合員	株主
目的	●組合員の生産と生活を守り向上させる（組合員の経済的社会的地位の向上） ●事業利用を通して組合員に奉仕	●利潤の追求 ●利益金分配を通して株主にサービス
行動原理	助け合いの精神で長期的多面的な利益を優先	競争主義による短期的な自己の利益を最優先
利用者	組合員	不特定の顧客
運営方法	組織者・利用者・運営者が同一	株主総会で方針決定
議決権	1人1票制（人間的平等による民主的運営）	1株1票制

マークの定義

JAマーク［組織マーク］

Japan Agricultural Cooperative

JA（ジェイエー）という名前は、「農業協同組合」の英語表記の頭文字をとってつけられたニックネームです。シンボルマークは緑のアルファベットのJとAを組み合わせたデザインで、どっしりとした大地と人と人のきずなのイメージを表したものです。

ブランドメッセージ

全農
ZEN-NOH
食と農を未来へつなぐ。

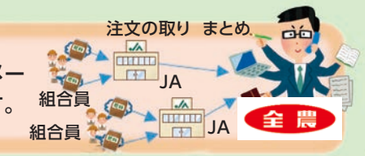
農業・JAグループを取り巻く環境変化や消費者ニーズの多様な変容が予測されるなか、国民の食を守ることは、より重要となっています。本会が未来へ食と農業をつなぐ中心的な役割を果たしていく決意が込められています。

JA全農ちばとは

JA全農ちばは、JAグループの中でも、農畜産物の販売や農作業に必要な資材の供給などの流通「経済事業」を担っているJA全農の県段階組織の一つです。JAを通じて、千葉県内の組合員が出荷した農畜産物を取りまとめて、組合員・JAに代わって市場等へ販売することや、肥料・農薬・資材・農業機械・燃料などを組合員へ供給することが主な役割です。さまざまな面から組合員をサポートすることで、県内の農業や私たちの食生活を支えています。

●購買事業

JAを通じて農畜産物を育てるのに必要な品物の注文を集め、メーカーなどからまとめて仕入れ、より低価格で組合員に提供します。



●販売事業

JAを通して組合員が出荷した農畜産物を取りまとめ、市場や卸売業者などに販売。組合員が個別に販売するよりも多くの量を安定して販売できるのがJA全農ちばの強みです。これを生かし、組合員の収入を1円でも多くできるように取り組んでいます。






組合員の暮らしを支える
生活品の取り扱いもしています

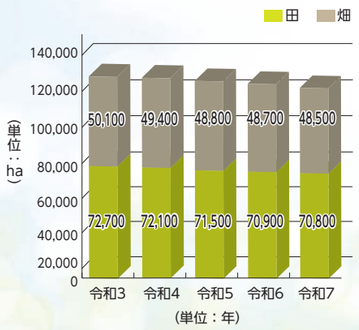
事業案内に使われている緑色を「千葉カラー」と呼んでおり、JA全農ちばが取り扱う段ボールに使用されている色と同じで、千葉県の系統結集（JAグループの一致団結）の“証”です。


組合員やJA職員に対して、栽培技術の研修も行っています

千葉県農業の現状

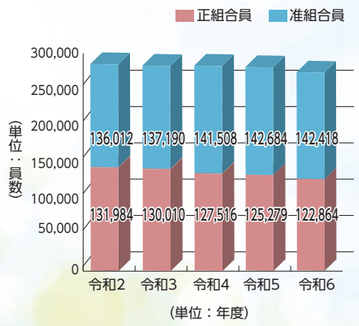
千葉県は、首都圏の東側、太平洋に突き出た半島部に位置し、200～300m級の山々が続く房総丘陵と比較的平坦な下総台地、利根川流域と九十九里沿岸に広がる平野部から成っています。千葉県農業は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、都市農業・平地農業・中山間地農業という3つの特徴を同時に併せ持ち、各地域の特性を反映させ多彩な品目を生産しています。一方で、全国的な傾向と同様に千葉県においても耕地面積やJAの正組合員数は減少傾向にあります。

●耕地面積の推移《千葉県》



資料：千葉の園芸と農産

●JA組合員の推移《千葉県》



資料：千葉県JA決算とりまとめ資料

令和8年度の取り組みの考え方

- 環境変化の要因を現場目線で的確に把握し、今後の展開をもとに対応策を検討の上、取り組みをすすめます。
- 情報提供やニーズに対応した提案をより積極的に実施し、生産者・JAとの接点を強化します。
- 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に向け、**生産振興、トータル生産コストの低減、販売力の強化**に取り組み、「生産基盤の維持・拡大」につなげます。
- IT・DXの導入等を提案し、JA担当者の**業務の効率化**をすすめるとともに、生産者への対応力の強化につなげます。

●生産振興

- 気候変動に対応した栽培方法等の検討および普及
- 多様な農業経営体の経営改善に寄与できる提案力のある人材の育成
- 露地重点3品目(長ねぎ・にんじん・さつまいも)の生産拡大　他

●トータル生産コストの低減

- 銘柄集約肥料・大型規格農薬（メガ得、パレット規格）の普及・拡大
- 段ボール資材の材質・形状見直しによるコスト削減
- 共同購入コンバイン等の取扱拡大　他

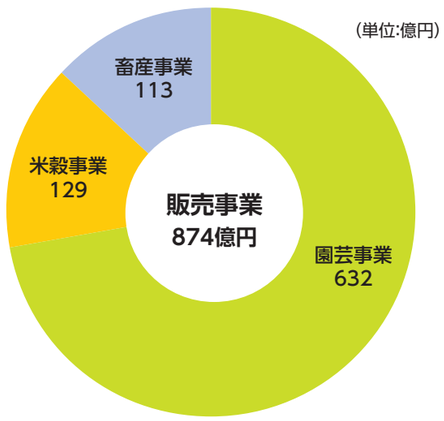
●販売力の強化

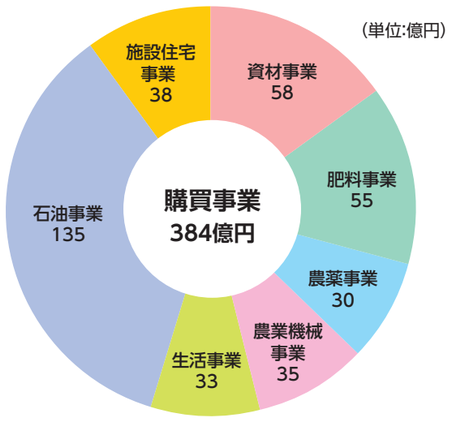
- オール千葉体制の強化によるロットの拡大・契約販売の拡大
- 千葉米販売結集に向けた集荷の拡大
- 農畜産物の生産コストを踏まえた適正価格に対する消費者への理解醸成　他

●IT・DXの導入・業務の効率化

- 園芸集出荷情報のデジタル化による荷受作業の効率化
- 購買事業のシステム導入による受発注業務の効率化
- システム導入等による米物流改善　他

●令和8年度 JA全農ちば 取扱計画（1,257億円）





営農園芸部

（2026年度計画　632億円）

●営農支援課

「生産基盤維持・産地づくりに向けた営農支援」として、各JA地域農業振興計画を軸とした担い手支援や、水稲省力・低コスト技術の普及拡大、さらに労働力支援の取り組みとして、ドローンによる作業受託等に取り組んでいます。

また、産地づくりにつながる人材育成支援として、JA営農・経済担当職員のレベルアップに向けた研修や品目別専門指導員の養成研修のほか、千葉県農業者総合支援センターと連携した若手生産者や農業生産法人等の担い手を対象とした研修を実施しています。



ドローンによる遮光資材塗布作業

●営農技術センター

生産基盤の維持・産地づくりのため優良種苗の生産・供給、土壌診断にもとづく適正施肥提案、高温対策BS資材等試験に取り組んでいます。

また、生産者やJA担当者等に対して栽培技術・作業効率向上等の研修や情報発信、営農指導員等の人材育成のための各種研修会や課題解決に向けた実証試験に取り組んでいます。



高温対策BS資材等試験（ネギ）

●園芸振興課

「生産の維持・拡大と生産振興の取組強化」として、主要3品目（長ねぎ・にんじん・さつまいも）を中心としたオール千葉体制による生産維持拡大に取り組んでいます。また、千葉県農業者総合支援センターと連携した系統未利用者・低利用者への推進強化による系統シェア拡大に取り組んでいます。



秋冬野菜出陣式

●園芸販売課

園芸品目の販売拡大に向け、パートナー市場と連携したオール千葉体制により主要品目を中心に各取引先のニーズを踏まえた契約販売や予約相対取引の拡大をすすめています。加えて、千葉県等と連携し消費拡大や千葉県産のPRのための消費宣伝を実施しています。また、生産者の経営安定に向けた野菜価格安定事業にも取り組んでいます。



台湾でのさつまいもフェア

●園芸直販課

生協や食品スーパーに加え、外食・中食向けへの青果物やカット野菜など実需者への直接販売に取り組んでいます。また、東南アジア諸国を中心とした千葉県産農産物の輸出事業も行っています。

米穀部

（2026年度計画　129億円）

●米穀農産販売課

米穀事業では、JAにて集荷された米穀を、米卸会社や実需者を通じて消費者の皆さまへお届けしています。安心安全な保管管理体制の構築と円滑な流通に努め、千葉県産米の安定販売に取り組んでいます。また、消費者向け宣伝活動により、千葉米の知名度向上や米消費拡大に取り組んでいます。

一方、生産面では需要に応じた米生産普及のため、実需者との連携による「契約栽培」の普及拡大や、県・関係機関と連携し「水田活用米穀」の作付定着に取り組んでいます。

農産事業では、日本一の生産量を誇る千葉県産落花生のさらなる生産振興と販売促進に取り組んでいます。また、米穀農産事業の円滑な流通に不可欠となる米麦種子、フレコン等食糧資材も取り扱い、これらの安定供給に取り組んでいます。



フードバンクへの寄付を通じた千葉米のPR




落花生を乾燥させるために積み上げる「ぼっち」

＼落花生の豆知識／

水分が多い掘りたての落花生を乾燥落花生にするため、収穫後に畑で1週間程「地干し」して適度に乾かします。さらに1ヶ月程、落花生を積んで「ぼっち」を作り乾燥させることで、落花生のデンプンは糖に変化して甘味が増し、渋みが抜けてコクのある“千葉県自慢の落花生”に仕上がります。

畜産部

（2026年度計画　113億円）

●畜産酪農課

肉豚事業では、銘柄豚「房総ポーク」の生産者の生産性向上や新規生産者への提案による頭数確保、知名度向上による販売力強化に取り組み、生産者の経営維持および生産の拡大に取り組んでいます。

肉牛事業では、生産者の所得安定化に向け、相対取引の強化およびJA全農ミートフーズ㈱と連携した輸出事業に取り組みます。

酪農事業では、生産基盤維持・拡大のため、技術コンサルタントの巡回指導により、生産者の手取り向上に取り組んでいます。

直販事業では、直売店舗「全農のお肉工房」やインターネット販売サイトの「JAタウン」での県産の系統ブランド肉やその加工品の販売を通じ、知名度向上と消費拡大に取り組んでいます。

また、県内の畜産生産基盤維持のため、JA・関係団体との連携により家畜堆肥の活用と地域循環型の仕組みづくりを検討・協議しています。



全農のお肉工房　さだもと店


房総ポーク勉強会の様子

生産資材物流部

（2026年度計画　177億円）

●肥料農薬課

安全・安心でおいしい農産物づくりのための高品質肥料の安定的な供給と化成肥料をはじめとした銘柄集約、ならびに通常規格より低コストな農薬担い手直送規格（愛称:メガ得）の取扱強化などにより、系統の利用拡大と生産コストの低減に取り組んでいます。

また、堆肥など国内地域資源の活用によるコスト低減肥料の普及拡大、高品質な農産物を安定的に生産するための基本となる「土づくり肥料」の利用拡大などにも取り組んでいます。



低コストな農薬担い手直送規格（愛称:メガ得）

●資材課

青果物や花きの出荷に必要な段ボール資材などの出荷資材をはじめ、農業生産に必要なパイプハウスなど農業資材や野菜の種や苗の安定供給に取り組んでいます。

また、段ボール資材の材質や寸法の見直しによるコスト低減、生分解性マルチや自動制御機器など省力化資材の利用拡大に取り組んでいます。


営農技術センターでの自力施工研修

●農業機械課

低価格モデル農機の共同購入コンバイン（4条刈50馬力クラス）、関東6県共同購入機やレンタル農機の取扱拡大、中古農機の流通拡大等により生産コストの低減に取り組んでいます。

また、毎年10月に「JAグループ千葉農業機械大展示会」を開催して、県下JAが結集し生産者に新商品や新技術（スマート農業機械など）の情報発信を行っています。


第50回JAグループ千葉農業機械大展示会

●物流課

JAの物流コスト低減に向け、広域物流センターを運営し、組合員宅への生産資材をはじめとした戸配送に取り組むとともに、戸配送車両を活用した購買品や販売品の転送等によるJA物流業務支援、生産物の圃場・庭先集荷等による生産者支援をすすめています。



安房広域物流センターにおけるピッキング作業

生活部

（2026年度計画　206億円）

生活事業では、シロアリ防除や外壁塗装、太陽光発電システム・蓄電池等の導入、健康機器のご提案など、住まいと健康を支えるサービスを通じて、地域の皆さまの豊かな暮らしづくりを応援しています。

また、国産農畜産物および国産農畜産物を主原料とした食品の取扱拡大に取り組んでいます。周知活動の一環として、エーコープマーク品を中心に、SNSを活用したレシピ提案を行い、商品PRに取り組んでいます。

燃料事業では、営農用燃料油（灯油・重油・軽油）の新規利用拡大や地域ライフラインの維持を目的にJA−SSの運営力強化支援に取り組んでいます。また、業界に先駆けて導入したQRコード決済のさらなる利用拡大と、SSのLINE公式アカウントを活用したガソリンなどの販売促進に取り組んでいます。

施設住宅事業では、JAと連携した組合員への土地有効活用の相談・提案活動を強化し、施主代行方式による事業対応に取り組んでいます。また、計画的な建替、補改修等の相談・提案活動に取り組んでいます。



エーコープマーク品を使ったレシピ提案（いちご大福）

全農施行物件


計画・設計から施工管理したJAちば東葛野田地区経済センター



JA−SS
QRコード決済・LINEクーポン
販促のぼり

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

管理部

各事業部門との横断的な取り組みをすすめるとともに、県本部内の事業計画の立案、経営状況の把握、計画的な人材育成のほか、業務の効率化に向けた体制整備やコンプライアンスの徹底に取り組んでいます。

また、各種媒体を活用した積極的な情報発信に加え、スポーツを通じた食育活動の取り組みもすすめています。さらに、県内JAの経営基盤の確立・強化に向けた取り組みをサポートしています。

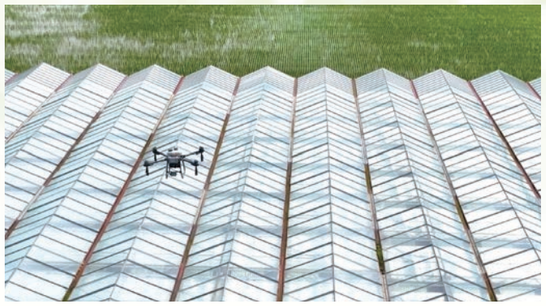

ジェフユナイテッド
市原・千葉と行った
小学生の収穫体験

持続可能な農業の実現に向けた取り組み

- 生産コスト低減の取り組み（肥料の銘柄集約、農薬の大規模規格（メガ得）、土壌診断による適正施肥など）
- 環境に配慮した肥料、生分解性マルチ等の導入推進
- 労働力支援の取り組みとしてのドローンによる作業受託等
- 消費者への農業・JAに対する理解醸成の取り組み



千葉県産の牛ふん堆肥を原料にした、低コストで
高機能なJAグループ千葉オリジナル肥料の開発・販売


ドローンによる施設（ハウス）への遮光・遮熱資材の塗布作業は、
今後さらなる活用が期待されます


生分解性マルチを導入することで、通常のポリマルチを使用した際に
発生する作業（剥ぎ取り・マルチ回収・土落とし・つづら折り・運搬）が
"すき込み作業"のみで完結するため省力化とトータルコスト低減に期待されています。

社　会　貢　献

スポーツ支援活動

- 全農杯全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）千葉県予選会、全農杯全国小学生選抜サッカー大会 IN 関東への県産農畜産物提供
- 全国高等学校野球選手権大会、選抜大会出場校への県産農畜産物の贈呈
- ジェフユナイテッド市原・千葉への千葉県産の青果物・米・加工品の贈呈



ジェフユナイテッド市原・千葉への梨贈呈

食農教育活動

- 県内小学校への食育活動
- 県内中学生のキャリア教育企画への参画
（「発見たんけん千葉県」への掲載と協賛）


キャリア教育企画での授業


お米に関する出前授業

各種支援活動

- フードバンクへの青果物、米の寄付
- NHK歳末助け合い募金
- エコキャップ運動への参画

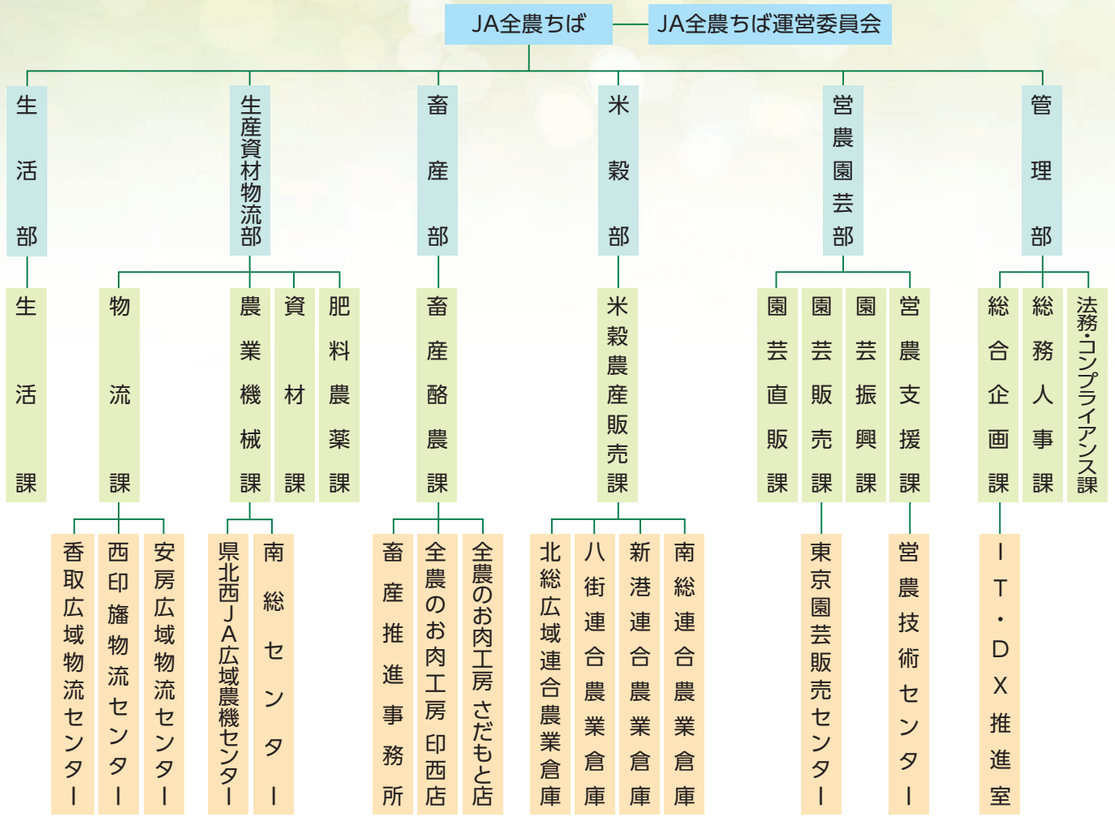


組織概要

設立	2001年3月31日
千葉県本部長	吉田　光
職員数	149名（令和8年4月1日現在）
事業内容	1.米・麦・青果物・肉などの農畜産物販売 2.肥料・農薬・段ボール・農業機械などの農業生産資材や燃料・食料品・衣料品・農業施設などの生活関連資材の供給
取扱高	1,338億円（令和6年度）

JA全農ちば 機構図

令和8年4月1日現在




全農のお肉工房 さだもと店


全農のお肉工房 印西店


北総広域連合農業倉庫


営農技術センター

沿革

1947年（S22年）	千葉県販連、千葉県購連が設立
1952年（S27年）	千葉県販連、千葉県購連が合併し、千葉県販売購買農業協同組合連合会（千葉県販購連）となる
1969年（S44年）	名称変更し、千葉県経済農業協同組合連合会（千葉県経済連）となる
2001年（H13年）	千葉県経済農業協同組合連合会と全国農業協同組合連合会が合併し、全国農業協同組合連合会千葉県本部（全農千葉県本部）となる

正式名称	全国農業協同組合連合会千葉県本部
略称	全農千葉県本部
愛称	JA全農ちば

事務所・事業所一覧

●農業会館内　〒260-0031　千葉市中央区新千葉3-2-6

管理部

法務・コンプライアンス課	☎043-245-7401
総務人事課	☎043-245-7370
総合企画課	☎043-245-7360
IT・DX推進室	☎043-245-7365

営農園芸部

営農支援課	☎043-245-7373
園芸振興課	☎043-245-7378
園芸販売課	☎043-245-7389
園芸直販課	☎043-245-7385

米穀部

米穀農産販売課	☎043-245-7374

畜産部

畜産酪農課	☎043-245-7381

生産資材物流部

肥料農薬課	☎043-245-7387
資材課	☎043-245-7379
農業機械課	☎043-245-7393
物流課	☎043-245-7406

●総合センター　〒261-0002　千葉市美浜区新港70-3

生活部

生活課	☎043-247-1411

事務所・事業所

営農技術センター
〒286-0045　成田市並木町字大久保台221-81
☎0476-22-5131

東京園芸販売センター
〒143-0001　東京都大田区東海3-2-1
☎03-3790-6408

全農のお肉工房さだもと店
〒299-1133　君津市貞元133-1
・問い合わせ先:畜産酪農課　☎043-245-7381

全農のお肉工房印西店
〒270-1334　印西市西の原4-3
・問い合わせ先:畜産酪農課　☎043-245-7381

畜産推進事務所
〒289-2505　旭市鎌数6354-3
☎0479-64-1262

南総センター
〒297-0102　長生郡長南町本台628
☎0475-40-5321

県北西JA広域農機センター
〒278-0012　野田市瀬戸975-3
☎04-7138-3556

安房広域物流センター
〒299-2503　南房総市石堂45-1
☎0470-40-4191

香取広域物流センター
〒287-0026　香取市大根703-2
☎0478-79-5580

本所機構

施設農住部 東日本広域施設農住事業所 千葉施設農住事務所
総合センター内
☎043-307-3885

総合エネルギー部 関東エネルギー事業所 千葉推進課
〒130-0026　東京都墨田区両国3-25-5
☎03-3631-1107

子会社

●㈱ジェイエイライフ・千葉
〒261-0002 千葉市美浜区新港70-3
☎043-302-0983



「すべては葬家のために」を信条とし、故人とご遺族の想いに寄り添い、事前の相談からサポート、アフターフォローにいたるまで、心をつくした信頼のサービスを提供します。

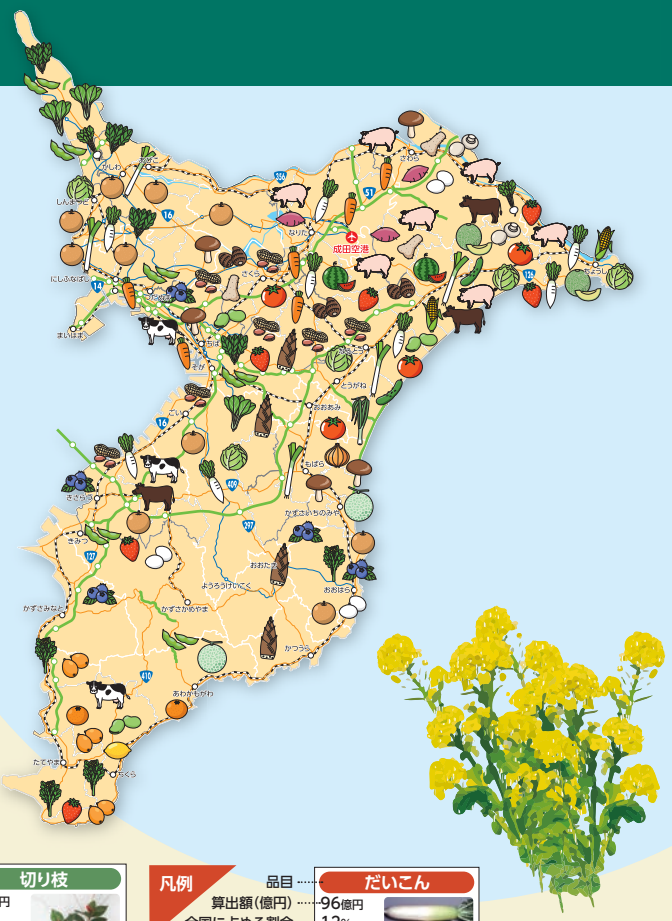
関連会社

●㈱JAエネルギー千葉
〒261-0002 千葉市美浜区新港70-3
☎043-245-7850



「クミアイプロパン」のブランドで千葉県内JAの生産者を中心とした一般家庭向けと業務用のLPガス販売事業を行っています。LTOS（LPガストータルオペレーションシステム）にて、お客様の使用状況、配送管理等を行っています。
　また、JA組合員が日々利用している電気「JAでんき」の販売を行っています。

千葉県を代表する農畜産物



1位

だいこん	日本なし	さやいんげん(未成熟)
96億円 12% ②北海道 ③青森	81億円 11% ②茨城 ③鳥取	45億円 18% ②福島 ③鹿児島

マッシュルーム	かぶ	みつば
29億円 38% ②山形 ③茨城	27億円 26% ②埼玉 ③青森	15億円 18% ②茨城 ③愛知

2位

にんじん	すいか	えだまめ(未成熟)	とうもろこし
116億円 20% ①北海道 ③徳島	71億円 11% ①熊本 ③山形	48億円 12% ①群馬 ③山形	36億円 11% ①北海道 ③茨城

しょうが	しゅんぎく	ししとう
27億円 13% ①高知 ③熊本	14億円 10% ①大阪 ③福岡	9億円 14% ①高知 ③愛知

3位

さつまいも	ねぎ	キャベツ
185億円 17% ①茨城 ②鹿児島	131億円 9% ①茨城 ②埼玉	79億円 8% ①群馬 ②愛知

さといも	カーネーション(切り花)
29億円 8% ①埼玉 ②宮崎	10億円 10% ①長野 ②愛知

4位

洋らん(鉢)	やまのいも	庭園樹苗木	スターチス
29億円 8% ①愛知 ②福岡	25億円 5% ①北海道 ②青森	7億円 5% ①福岡 ②三重	1億円 2% ①和歌山 ②北海道

5位

トマト	きゅうり	ほうれんそう	じゃがいも	切り枝
99億円 4% ①熊本 ②北海道	79億円 6% ①宮崎 ②群馬	57億円 7% ①群馬 ②埼玉	27億円 3% ①北海道 ②長崎	14億円 6% ①茨城 ②愛媛

凡例
品目……だいこん
算出額(億円)……96億円
全国に占める割合……12%
算出上位の県名①～③……②北海道 ③青森

その他の品目

らっかせい(からつき) 1位	鶏卵 1位	豚 4位	生乳 5位	乳牛 5位	米 9位
68億円 85% ②茨城 ③神奈川	504億円 7% ②茨城 ③鹿児島	519億円 7% ①鹿児島 ②北海道	238億円 3% ①北海道 ②栃木	17億円 2% ①北海道 ②栃木	569億円 4% ①新潟 ②北海道

千葉県が全国的に主要な生産県となっている品目
(統計公表外)



(令和5年 千葉県農業産出額)

知ってほしい！千葉おすすめの農畜産物の一部をご紹介

粒すけ　令和7年度「特A※」ランク獲得！



千葉県マスコットキャラクター チーバくん
千葉県許諾第T11-5

「粒すけ」は、千葉県が13年かけて開発した千葉県期待の独自品種で、名前には「自分の子どものように愛着を持ってもらいたい」という思いが込められており、2020年9月にデビューしました。

Qなっつ



2019年産デビューの品種「Qなっつ」は、他品種に比べ莢が白く、甘みがあり、あっさりと食べやすいのが特徴です。これまでのピーナッツを超えるという意味で、「『Q(きゅー)』なっつ」と命名されました。

房総ポーク



「房総(ぼうそう)ポーク」は、千葉県を代表する銘柄豚のひとつ。出荷前のおよそ2ヵ月間通常の配合飼料に海藻粉末を入れて育てたこだわりの三元豚で、臭みが少なく、やわらかな食感とさっぱりとした旨味が特徴のお肉です。

※一般財団法人日本穀物検定協会が実施している"お米の味や香り"に関する評価「食味ランキング」のランクです。「特A」を最高位とした「A」「A'」「B」「B'」の5段階で格付けされています。

千葉県農業算出額全国順位（令和5年）

(単位：億円)

順位	総産出額	耕種計	豆類	イモ類	野菜	花き	畜産計	生乳	豚	鶏	鶏卵
1	北海道 13,478	北海道 5,641	北海道 293	北海道 591	北海道 2,489	愛知 563	北海道 7,837	北海道 4,341	鹿児島 910	鹿児島 1,540	千葉 504
2	鹿児島 5,438	茨城 3,082	千葉 69	茨城 375	茨城 1,664	千葉 200	鹿児島 3,754	栃木 435	北海道 608	北海道 1,073	茨城 495
3	茨城 4,571	長野 2,597	宮城 26	鹿児島 310	熊本 1,365	福岡 188	宮崎 2,483	熊本 317	宮崎 600	熊本 1,023	鹿児島 439
4	千葉 4,029	千葉 2,526	滋賀 18	千葉 212	千葉 1,336	静岡 179	岩手 1,975	岩手 245	千葉 519	茨城 593	岡山 433
5	熊本 3,757	青森 2,376	福岡 18	長崎 123	愛知 1,083	茨城 165	千葉 1,501	千葉 238	群馬 478	千葉 562	広島 361

資料：令和５年農業産出額、農林水産省

※耕種計には、米、麦類、雑穀・豆類、イモ類、野菜、花き、工芸農作物、種苗・苗木類・その他を含む
※表項目以外の産出額第10位以内は、第９位の米(569億円)、第６位の乳用牛(254億円)

https://www.zennoh.or.jp/cb/ https://www.zennoh.or.jp/cb/

ホームページ　@zennoh_chiba　@JA-iz1cw

JAタウン　JA全農ちば
愛情いちばん館
インターネットで千葉の農畜産物を産地直送
https://www.ja-town.com/shop/c/c3401/

JA全農ちば
全国農業協同組合連合会千葉県本部